

重点調査項目 学校教育
発言項目 新型コロナウイルス感染症対策
<p>(発言主旨) 感染症罹患の不安による偏見や差別、誹謗中傷が社会問題となっている。学校生活でも不安や怖れがいじめの原因となる懸念があり、感染者への対応や周囲の受け止めについて統一した指導や教育が大切である。</p>
<p>Q 新型コロナウイルス感染症に罹患する不安から登校を控える児童生徒数を伺う。</p> <p>A 再開後、4月17日時点で小中合わせて48人である。</p> <p>Q 感染症の拡大に伴い、偏見や差別、いじめも蔓延する状況にある。学校にあっても「正しく怖れる」指導や教育が必要である。取り組みを伺う。</p> <p>A 子どもたちには新型コロナウイルス感染症についての正しい知識や、感染予防について、発達段階に応じた指導をしている。また、新型コロナウイルスに関する偏見や差別は許されないことであり、学校においてもこのようなことが生じないように、道徳や学級活動などの時間に指導している。</p> <p>Q 不安の原因は迷走する休校方針にも起因する。現在はどうのような臨時休校指針下にあるのか、これまでの経過を伺う。</p> <p>A 2月27日からの臨時休業において、子どもたちの健康観察と休業中の学習教材の配布などを目的に、3月9日より市内一斉に家庭訪問を行った。その後、3月16日から24日までの間、各学校の実態に応じた分散登校を実施した。</p> <p>A 新年度に入り、3つの密(密閉、密集、密接)を避けるため、マスクの着用や換気などの感染症予防の徹底を図りながら学校を再開した。</p> <p>A その後、国の緊急事態宣言があり、北海道教育委員会の通知を受け、再び20日より臨時休業になったところである。</p>
<p>(意見) 感染者を一人も出さないことをめざす対策は初動において有効だったが、感染経路不明者が多くなり、一層拡大する局面では問題の方が大きい。この方針が「感染は悪」との認識を醸成し、休校方針の迷走やマスクの不安煽動も手伝って魔女狩りのような状況となっている。60%以上が免疫を獲得しなければ収束しない長期化する感染症の闘いは「罹患しない」ことより「罹患しても軽症に抑える」考え方に見直すべきである。ワクチンにより、または自らの力により、抗体を持つ人が増えることで感染を収束させてきた歴史に学ぶことで罹患に対する偏見や差別も解消される。「正しく恐れる」明確な方針のもと、当面の対策が示されなければ感染症も経済も混乱は拡大するばかりである。横並びの外出自粛や休業要請、一斉休校ではなく、地域の状況に照らした独自の取り組みが必要である。</p>

【各委員の発言項目】

- ① 道路の維持管理に関する調査について なし
- ② 住まいに関する調査について
 - ・新型コロナウイルス感染症対策としての市営住宅入居者の家賃減免措置
- ③ 緑の保全および公園の維持管理に関する調査について
 - ・新型コロナウイルス感染症対策としての公園遊具の管理
- ④ 上下水道施設の維持管理に関する調査について
 - ・上下水道料金体系の検証
- ⑤ 学校教育に関する調査について
(新型コロナウイルス感染症対策)
 - ・マスク、消毒薬、検温器の充足度
 - ・新学期の人の異動に関する対策（児童生徒・教職員）
 - ・PTA 活動等への影響と保護者連携
 - ・学習への影響と学校行事の見直し オンライン教材の制作
 - ・発達障害者への対応
 - ・児童虐待の現状と対策
 - ・相談窓口の設置と相談件数及び内容
 - ・家庭訪問及び分散登校に対する市教委の考え
 - ・学童保育への支援
 - ・登校しない生徒の扱いと対応と「正しく怖れる」指導
 - ・感染症対策に対する基本姿勢と地域状況に応じた取り組み
 - ・公園遊具の使用禁止に対する市教委の考え

通告による質問

- ・防災に向けた河川管理の進捗について
- ・動物園における新型コロナウイルス感染症対策